

科目名	解剖学Ⅰ			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	30回	時間数	60時間 (4単位)	配当学年・時期	作業療法士科1年	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕							
作業療法にとって、骨や筋などの運動器及び、脳脊髄神経の理解は非常に重要になる。身体各部位の運動器や脳神経系についてその構造をしり、それが意味する事や機能を理解し、今後の作業療法学専門領域の学習の基礎を築く。1～15では、解剖学的用語を学びその上で人体の運動器を中心とした構造・構成の理解を深め、作業療法士としての基礎的知識を習得する。							
〔授業全体の内容の概要〕							
・講義に加えて、スケッチや骨標本などを用いたイメージ作り、触診などの実技を随時加えながら行う。1～15では、講義を中心にしつつ、スケッチや骨標本を活用しながらイメージを促すとともに、ペアで触診や関節運動を確認しながら理解を深める。							
〔講師の実務経験〕							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕							
・全身の運動器系や脳神経系の名称から構造と機能が具体的にイメージでき、説明が出来る。1～15では、骨名、骨の部位名、構成（関節）を説明することができる。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション						
2	解剖学用語と人体の区分						
3	骨格系総論						
4	筋系総論						
5	関節と靭帯総論						
6	骨・筋・関節靭帯各論（頭蓋・脊柱）①						
7	骨・筋・関節靭帯各論（頭蓋・脊柱）②						
8	骨・筋・関節靭帯各論（頭蓋・脊柱）③						
9	骨・筋・関節靭帯各論（肩甲帯・上肢）①						
10	骨・筋・関節靭帯各論（肩甲帯・上肢）②						
11	骨・筋・関節靭帯各論（肩甲帯・上肢）③						
12	骨・筋・関節靭帯各論（下肢帯・下肢）①						
13	骨・筋・関節靭帯各論（下肢帯・下肢）②						
14	骨・筋・関節靭帯各論（下肢帯・下肢）③						
15	まとめ						
16	神経系総論（区分、構成、髄膜と脳室系）						
17	中枢神経系（脊髄）						
18	〃（脳幹）						
19	〃（大脳・間脳）						
20	〃（大脳・大脳半球・大脳皮質）						
21	〃（大脳・大脳基底核）						
22	〃（上行性伝導路）						
23	〃（下行性伝導路）						
24	末梢神経系 脊髄神経（頸神経、頸神経叢）						
25	〃 脊髄神経（腕神経叢）						
26	〃 脊髄神経（胸神経、腰神経、腰神経叢）						
27	〃 脊髄神経（仙骨神経、仙骨神経叢）						
28	〃 脳神経（Ⅰ～Ⅳ）						
29	〃 脳神経（Ⅴ～Ⅷ）						
30	〃 脳神経（Ⅸ～ⅩⅡ）						
定期筆記試験							

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
標準理学療法学・作業療法学 解剖学	野村	医学書院
プロメテウス 解剖学コア アトラス	坂井	医学書院

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

履修規定に準じ、試験の結果を100点満点として60点以上の場合に合格とする。1～15では、小テスト10点（毎時間10分程度の小テストを10点満点で実施した平均点）と履修規定に準じた試験90点を足して100点満点として60点以上の場合に合格とする。